

また、縄文遺跡が多く国宝の中空土偶は、我が町で発掘された事など、参加者全員が吉村理事の演説にすっかり呑み込まれてしまいました。

理論研修の主役である浜辺主任講師も、負けじとユーモアを交えて、今年のスツで開催された技術選の最新映像を見ながら、会場設営の苦労話や選手のパフォーマンス効果の上がる演出の方法など、裏話を含めての技術解説と今季の研修会テーマをおさらいして18時終了。



浜辺主任講師の技術解説に真剣な面持ち

初日の夕食は、大学生の研修旅行と重なったために19時に変更、お詫びとして三浦総務主任の粋な計らいで、食後に「インスペクション」と称して翌日の懇親会の前夜祭が開催され、参加自由とは言え、大いに盛り上がりました。

(広尾からツブを差し入れしてくれたY先生、ゴチになりました)。

4月8日、2日目は曇り時々晴れ。

9時30分スタート、朝から風は少し強かったが、アンヌプリ、羊蹄山、小樽、ルスツ方面と周囲の山々が見え、各班ごとに実技研修が開始されました。千米台地の雪質は、アイスバーンとザラメが混じった難しいゲレンデ状況ではありましたが、参加者の皆さんは元気に研修に取り組んでおりました。

昼食後、各班の担当講師交代が行われ、午後からの強風もあり、スケジュールを30分繰り上げ、以下理論研修も30分繰り上げ開始となりました。

2日目の理論は、大川奈々、大場優希、小森彩未SAJデモが参加したディスカッション方式で行われ、浜辺主任講師の司会進行で開始されました。

まずは、3名のデモの今年の大会の感想と来季の目標・抱負・得意な種目・技術的な感覚、チャームポイント等々、爆笑あり、拍手ありの楽しい理論研修となりました。



小森・大場・大川SAJデモ（左から）



チャームポイントの激白で会場は大爆笑

質疑応答では、内スキー処理の感覚的なもの、アイスバーンの滑り方、スキーを踏み込む時の感覚・方法、体のコンディショニングの作り方、スキーの選び方等々を3名のデモが自分の感覚で語ってくれました。質問には、デモがタジタジとなるような場面も多々あり、この研修会ならではの内容ある熱心な討議が、制限時間いっぱいまで行われました。終了後は、記念写真と研修シールが入った封筒を各講師から手渡され、いよいよこの研修会のメインイベントである懇親会へ会場は移されました。

18時、2階レストラン「シュプール」において、懇親会が開催されました。冒頭、責任者挨拶では吉村理事から「明日は3日目、ケガのないよう十分気を付けて、今日は沢山呑んで想い出多い研修会にしてください。」と、温かみのある「浜なまり」で挨拶。

乾杯の音頭は、藤島会長がこの研修会を企

画・復活させた経緯を熱く語り、「カンパイ！」
宴の幕は上がりました。



吉村道連理事



藤島道協会会長

各班ごとに分けられた6テーブルには、差し入れの地元ニセコ酒造の「活性酒（どぶろく）」が用意され、宴のムードは盛り上がり、自己紹介タイムへ・・・（N先生ゴチになりました）。

宴もたけなわとなったところで、昔の研修会でよく歌われていた懐かしい「スキーソング」の歌詞カードが配られ、全員で合唱！

締め乾杯は、第2回から参加の大川デモが笑顔いっぱいの発声で、宴の幕は降ろされました。恒例の二次会が、大盛況であったことは言うまでもない。



大川デモによる締めの乾杯！

4月9日、快晴。この研修会が3日間とも好天に恵まれたのは、初めてのこと。今年参加された善男善女のおかげかもしれない。

9時実技開始、しかし、30分も前に参加者の皆さんは、ゲレンデ前に集まってやる気満々である。昨日の酒は大丈夫か？



最終日、参加者の皆さんはやる気満々！

この日のゲレンデは、好天のため朝からザラメ状態である。11時、実技研修が終了、全員無事に閉会式会場に集合しました。

閉会式では、責任者挨拶で吉村道連理事から参加者の方々の元気な姿に、称賛と激励の言葉が送られ、協力団体挨拶では藤島会長から、3日間好天に恵まれたのは、参加者の皆さまの日頃の精進の賜物ですと、感謝の一言。

そして、3日間各班の面倒を見て頂いたデモには、「素晴らしい介護士さんになれます」と賛辞が送られ、参加者全員から拍手と温かい笑顔が送られました。来賓あいさつの後、浜辺主任講師から講評が述べられ、この研修会の和やかな雰囲気と、「ホッコリ」とした研修会に来年も是非呼んでももらいたいとリクエストがあり、参加者全員で3名のデモに感謝の拍手を送りました。最後に、今回の参加者最高齢である木村先生（84歳 苫小牧）が昨年に続き、元気な声でシーハイルを三唱し、「2017 春スキーの集い」スキルアップ研修会は、盛会裏に終了しました。3日間ですっかり仲良くなった参加者の皆さんの姿は、まるで同窓会のような楽しい雰囲気が感じられる「スキルアップ研修会」ならではのすばらしい集いとなりました。

「また、来年も参加しましょうね」と声を掛け合ってお別れする様子は、心に残る温かさを伝えてくれました。

皆さん、来年の参加を待ってますヨ！